



## 3年ぶりの…

校長 松崎 由里子

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ

私がまだ大学生だった頃に大ブームとなり、夢中になって読んだ俵万智さんの『サラダ記念日』に載っていた短歌。「寒いね」という、語りかけるような言葉と、「あたたかさ」との対比が見事で、心にほっこり届いてくる、私の大好きな一首です。日の出時刻が遅くなり、手袋がほしくなるような通勤路、ふと思い出し、心の中で口ずさんでいます。



この頃、ニュースでは、「3年ぶりの…」という言葉がよく聞かれるようになりました。新型コロナが流行して、一昨年、昨年と自粛せざるを得なかった様々な行事を、感染対策をとりながら実施したというものです。戸塚区でも、10月25、26、27日の3日間（午前午後6公演）に分けて、「戸塚区小学校児童音楽会」を、戸塚公会堂で3年ぶりに開催することができました。本校では、4年生が、27日に参加してきました。舞台上上がる人数の制限があったため、1クラスずつの発表となりましたが、戸塚区内の他の小学校のたくさんの方の友達に、自分たちの演奏を聴いてもらったり、友達の演奏を聴いたりすることが



できました。初めて大勢の前で演奏する子どもたちのきらきらした瞳の輝き。拍手をもらった時の紅潮した顔。音楽の楽しさ、面白さを感じ取った子どもたちのどきどき、わくわくした気持ちが会場中にあふれました。昨年度までは映像交換でしたので、やっぱり、その場、その空気を一緒に感じることで、こんなにも素敵な事なのだ、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

コロナ禍があったからこそ気付かされた、人と人がその場に「一緒に」いることの大切さ。ふと感じたことを話しかけると、それに答えてくれる人がいる—それは、「一緒に」いなければできないこと—。冒頭の歌の重みを改めて感じるとともに、30年以上前、まだこんな感染症が世界中で大流行するなど思ってもみなかったときに、その大切さを見事に伝えてくださった俵万智さんのすごさも実感しています。

子どもたちは、毎日、様々な思いを抱えて登校してきます。朝、校門で子どもたちを迎える時、校舎内ですれ違った時、「よく来たね。」「会えて嬉しいよ。」そんなメッセージを込めた挨拶をしていきたい…。小さなことから、人と人が「一緒に」いることのあたた

かさを、子どもとともに感じる日々を過ごしていきたいと思います。